

野生動物の生息状況調査

評価の観点

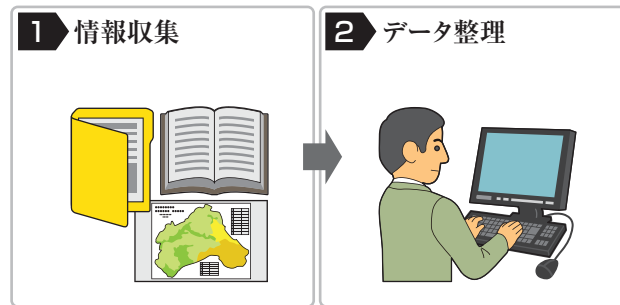
保護林等区分	観 点	調査の 選択
森林生態系保護地域	▶地域の気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林として着目すべき野生動物が生息しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 選択
生物群集保護林	▶地域固有の野生生物（動物）が生息しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 選択
希少個体群保護林	—	—
緑の回廊	▶野生動物の移動や休息、採餌等に利用されているか。	—

野生動物の生息状況調査(資料調査)

既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、野生動物の生息状況を整理する。



手順概要



方法と留意点

1 情報収集

対象保護林の現況を把握するため、前回の調査以降に行われた資料(調査結果)を収集します。「A. 森林タイプの分布等状況調査(資料調査)」で作成した「保護林情報図」と照らし合わせ、必要な調査地点の資料を入手します。主な資料の入手方法と調査対象とする項目は以下のとおりです。

モニタリングサイト1000(重要生態系監視地域モニタリング推進事業)

(入手方法)

環境省自然環境局生物多様性センターにて管理されています。

おおまかなモニタリング地点については、生物多様性センターのウェブサイトに掲載されていますが、詳細な位置情報や希少種に関する情報提供の可否については問い合わせで確認します。

(調査対象項目)

- 「森林・草原調査」の内、鳥類調査
- 「森林・草原調査」の内、地表徘徊性甲虫調査

世界遺産地域モニタリング

(入手方法)

各世界自然遺産地域の関係行政機関にて管理されているため、問い合わせで確認します。

(調査対象項目)

- 各世界自然遺産地域で実施されているモニタリングの内、動物に関する項目

その他の機関等で実施する調査

(入手方法)

大学や研究機関、都道府県、市町村の機関等で実施した調査結果について、各機関に問い合わせで確認し

ます。

留意事項

- ① 収集した資料には希少種に関する情報が含まれていることがあるため、取扱いに際しては十分に注意が必要です。

2 データ整理

① 資料調査整理表の作成

前項で収集した調査資料の一覧を様式に整理します。(様式3)

② 調査地点データの作成

調査地点をGISデータとして整理した上で、「保護林情報図」に追加します。位置が大まかにしか分からない場合は、おおよそのエリアを図示します。また、必要に応じて拡大した図面を整理します。(様式4)

③ 調査資料の整理

収集した調査資料はできるだけデジタルデータとして整理します。調査資料名が分かるよう、様式に整理します。(様式5)

留意事項

- ① 収集した資料には希少種に関する情報が含まれていることがあるため、取扱いに際しては十分に注意が必要です。
- ② 調査によって、調査手法や調査対象が異なることがあるため、必要に応じて調査手法等を様式の備考に記入します。(様式5)

※なお、モニタリング結果について、結果概要、評価・課題等を分かりやすい形で整理するため、総括整理表を作成します。(様式37または様式38)

GIS データとして整理する調査データの例

調査データ	ファイル名(例)	ファイル形式	属性情報	対応する様式
調査地点	調査地点_モニタリングサイト1000	シェープファイル(ポイント、ライン、ポリゴン)	<ul style="list-style-type: none">調査名調査地点名(ID等)調査実施年月日その他	<ul style="list-style-type: none">様式5